

アンケート結果を基にした分析考察

令和3年3月25日 学校関係者評価委員会

1 学校運営について

(1) スポーツ創志・普通科健康スポーツコース

「当てはまる」「少し当てはまる」：70%以上を高い評価とする。

○学校スローガン、通信便り、環境整備、相談・助言の質問では生徒は50%～60%台と評価が高くない。保護者に関しては高い評価を受けている。「あまり当てはまらない」という生徒の評価も20%～27%と多いことが分かった。

⇒情報収集の仕方、相談できる環境を作ることや科・コースでの行事や日頃の活動をホームページにアップしていきたい。

○「いじめ・暴力の根絶」の項目では高い評価を生徒がつけていた。教室内・部活動での繋がりが強いことを表していると感じた。

○昨年度同様、生徒・保護者の「学校への満足度」が高い。現状に満足することなく色々な取り組みを行ってきたい。

(2) 福祉未来創志・介護福祉科調理科

○生徒・保護者共に6割以上は良い評価となっている。特に、生徒よりも保護者の方が高い評価となっている。唯一、生徒よりも保護者の評価が低かった項目が「いじめ・暴力の根絶」である（例年同様の傾向である）。クラス内等において、友人トラブルや不登校傾向の生徒が見られるため、そのような話が保護者へ伝わり、我が子の状況に不安を感じているのではないかとと思われる。生徒の評価が低い項目は「相談・助言」で、約50%である。様々な悩みを抱え、相談できずにいる可能性がある。生徒の状況を丁寧に観察し、教員側からの働きかけが必要であると考えます。

(3) 食文化創志・調理科

○学校スローガンを理解して、その実現に努めているという項目は、生徒、保護者ともに全体よりは高い評価である。それ以外はほぼ全体と似たような割合で、平均的な回答に感じられるが、

保護者からは例年同様に高い評価を得ている。次年度以降も保護者に理解してもらえる教育活動をしていきたい。

○生徒の「⑤いじめ、暴力の根絶について」「⑥相談・助言について」の評価は十分とは言えない。観察から声がけ、面談などを通してクラス担任を中心に状況の把握に努めているが、それが評価に現れていなかった。人間関係の悩みを抱える生徒も多いので、学科の教職員全体で丁寧な対応に努めたい。

(4) 普通科1年

○学校の満足度については全体と比べた場合、肯定的な意見の割合が高かった。「あまり当てはまらない」や「当てはまらない」といった否定的な意見が圧倒的に少なく、コロナ禍という大変難しい年度であった1年目の活動としては十分な学習活動が行えたとみてよいだろう。特に保護者からの理解が得られたという結果は大きい。

○総合的探究は、予定とした活動はなかなか思うようにいかなかった部分もあるが、エナジードの活用や、佐藤教頭、各担任の主導で展開してきた講演会等を通じ、生徒たちに将来を考える機会を与えられたことは間違いない。来年度はクラス替えもある。今年度以上に細やかな配慮を念頭に活動していきたい。

(5) 普通科情報表現コース2・3年

○学校の満足度については昨年度と比べた場合、生徒の肯定的な意見の数が減っているのに対し、保護者の肯定感は一昇している。要因としては、学習環境の劣化が挙げられるかもしれない。

○新校舎への移行期間ではあるものの、現行の機材では多様化した情報表現コースのカリキュラムに対応しきれない場面が多くなってきている。そのあたりはアンケート結果にも現れている。新校舎に移行することでそのあたりはカバーできそうだが、今度はその中でさらなる質を求めていきたい。今は出来ることが限られているが、出来ることが増えた時に何も出来ないのでは意味がない。今のうちに個々のスキルアップを意識させて学習に取り組ませたい。

(6) 普通科デザインアートコース2・3年

○学校の満足度については昨年度と比べた場合、肯定的な意見の数が生徒、保護者共に増加し、肯定感は上昇しているといえる。要因としては、ファッションショーの成功も関係しているだろうが、それよりも検定・資格取得の項目での肯定的な結果が大きいのかもしれない。

(7) 普通科総合コース2・3年

○各項目において、「当てはまる」「少し当てはまる」の回答を合わせ50%を超えておりますが、今年度の特徴として、各項目における生徒と保護者の回答差がありました。

○②③⑥の保護者回答（「当てはまる」「少し当てはまる」）が70%を超えておりますが、生徒に直結する学習環境や、安全安心の意識の回答が60%前後という結果は、コロナ禍情勢の昨今においても課題と考えます。反面、⑤の回答において、生徒回答が80%を超えていることや、昨年同様、⑥の保護者回答が高いことについては、日々の担任のクラス経営と保護者の連絡連携が取れている事がうかがえます。更に努めていきたいと考えます。

(8) 募集業務部

○満足度が高い項目は、生徒は「いじめ・暴力」、保護者は「学校への満足度」「いじめ・暴力」「学習環境」「学校の通信」。募集活動において、保護者の口コミは見えざる大きな力であることを考えると、募集トークに「保護者が明成に入れて良かった」と感じていると織り込めるのはうれしいことだ。一方で生徒が「相談・助言」を求めている様子が見えてくる。

(9) 教務部

○③「学習環境の整備」に関しては、「当てはまる」と回答した保護者・教職員ともに2年連続上昇となっており、保護者が2年前比で11.6%増、教職員が12.2%増と、有意な差が見られた。一方で、生徒はほぼ変わらない状況である。数値上昇の要因が特定できていないが、ICT活用や新校舎の効果的な活用を進めることで、生徒の評価も含め確実に改善が見込めると考えている。

(10) 進路指導部

○保護者と教職員がある程度一致しているのに対し、生徒の回答が全般的に低い。しかし、いじ

めに関する項目が教職員と生徒ほぼ同等なのは評価されてもよい。

(11) 生徒指導部

○⑤いじめ・暴力の根絶(生徒 82%、保護者 59%、教職員 91%)

昨年比ほぼ同数。生徒の肯定的意見 82%は評価できる。保護者 59%は学校への信頼が弱い結果

と言える。小さなことでも報告・相談できる関係性を築いていきたい。

(12) 総務部

○④安全安心の意識については、アンケート結果より、

・(生徒) 65%が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。

20%が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。

15%が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。

(保護者) 75%が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。

5%が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。

20%が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。

(教職員) 87%が「A当てはまる」「B少し当てはまる」と答えていた。

10%が「Cあまり当てはまらない」と答えていた。

3%が「D当てはまらない」「Eわからない」と答えていた。

○教職員の意識は高く、昨年度と比較して変化なし。生徒・保護者に関しては、昨年度より、若干意識が高まった。(コロナ禍の影響か) 東日本大震災から10年目を迎えるが、防災教育や救命講習を継続して行う必要性を感じる。

○まとめ

・新校舎移行に伴い、避難経路等が変更となる。

・救命救急講習会は、毎年定期的に(6月中間考査の午後など)行うべきと考える。

- ・(AT ルームの協力もいただき、高大連携で進めていきたい) 個人やご家庭または地域など災害に対する意識や備えの再確認を毎年行うことが必要と感じる。

(13) 保健厚生部

○③学習環境の整備

「当てはまる・少し当てはまる」が生徒68%、保護者81%、教職員78%である。昨年度の生徒の評価は59%だった。新型コロナウイルス対応による教室のアルコール消毒など実際に清掃をしている生徒たちの取り組み意識が上がってきたとおられるがもっと上げることが必要である。

○④安全安心の意識

「当てはまる・少し当てはまる」が生徒65%、保護者75%、教職員87%である。自然災害対策について教職員の生徒への思いが数字に現れているが、新型コロナウイルスの影響で防災訓練などを行えなかったわりには生徒の意識は昨年度より4%上がった。健スポ・スポ創が3%上がり73%になった。被災地訪問学習の効果があったのかもしれない。

○⑥相談・助言

「当てはまる・少し当てはまる」が生徒51%、保護者76%、教職員82%である。この数字は、教職員は相談を受けているつもりでも生徒たちは声に出していないことを示しているのではないか。それでも昨年度よりも生徒の意識は昨年度より4%上がった。保健室で相談に乗っていることも含まれていると考える。先生方との連携をさらに深めていく。

2 四つの重点目標について

(1) スポーツ創志・普通科健康スポーツコース

○わかりやすい授業内容」では生徒・保護者共に高い評価を得ている一方、「あまり当てはまらない」という20%の評価が気になった。先生方も工夫をして授業を行っているが、授業だけでは賅えない部分の補充の仕方を模索する必要があると感じた。

○「学ぶ姿勢・落ち着いた学習環境」では生徒の47%「当てはまる」という評価を70%以上にな

るような取組みを行っていきたい。

○「定期考査の取組み」「主体的能動的な学習」では計画を立てて学習を行っていない生徒が半数近くいることが分かった。自発的に行えるのが理想だが、無計画な生徒が多いようなので考査一週間前からの勉強計画を作成させるなど生徒を誘導できるような取組みを行っていきたい。

○「検定・資格取得」「キャリア教育」「進路指導」では半数以上の生徒が「あまり当てはまらない・当てはまらない」という評価であった。入学当初から進路について話を行っているが生徒達への説得力に欠けるということだと感じた。検定や進路に対しての意識付けが必要だと強く感じた。

○学校生活のベースとなる部分である遅刻欠席・マナー・校内ルール・部活動については90%近い満足度であった。さらに上を目指して習慣付けていく。

(2) 福祉未来創志・介護福祉科調理科

○保護者からは全体的に高い評価を得ており、特に「検定・資格取得」については約90%の高い評価を得ている。科の特性を生かし全員に検定等へ挑戦させ、合格した生徒が多かったことが一員と考える。生徒の評価では、「進路指導」「キャリア教育」の項目で例年に見られない低い評価となった。コロナウイルス感染拡大防止のため、地域活動や介護実習等が全て中止となり、満足が得られなかったことが大きく影響していると考えられる。

(3) 食文化創志・調理科

○休校期間には郵送による課題を提示したため、年度当初から専門科目の学習内容を家庭で目にする機会があった。1年生のカボチャの播種と生育観察は、これからの学習への期待感を持たせられたように思う。調理レポートもあったので、保護者は子供たちが学んでいるという印象だったのではないかと。一方で、生徒たちはコロナ禍による制約を受けたため、平均程度の評価

にとどまった。

○生徒が平均以上の評価をしているのは「⑬キャリア教育」であった。調理以外の食に関する仕事の理解を深められるように、高大連携の視点で AT や GT の講話を取り入れたことが影響しているのだろう。

○生徒たちが改善傾向にあると自覚しているのは「⑮無遅刻や定時着席」などの基本的生活習慣に関することである。注意を受ける生徒は限られており、大半はルールを守って学校生活を送っているため、集団にいる個であることを意識させて生活マナー向上を指導していきたい。

(4) 普通科1年

○1の結果の要因としては、各教科担当の先生方の工夫もありわかりやすい授業という点では肯定的な意見がかなり多かったも挙げられよう。

○また、普通科独自の試みとして、携帯電話の一時預かりを実施しているが、服装や挨拶も含めた学校生活の基準作りも上手くいったように思える。

(5) 普通科情報表現コース2・3年

○なかなか考査の点数としての結果には現われていないが、各教科の先生方の細やかな指導のかわりもあり、わかりやすい授業を展開できていることも見て取れる。落ち着いて学習に臨める環境にも肯定的な回答が多く、今後も、担任、教科担当の先生方と連携しながら生徒たちの学びを深められたらと考えている

(6) 普通科デザインアートコース2・3年

○生徒自身が昨年よりも検定合格や資格取得に対して前向きに取り組んでいる様子が窺える。実際に生徒たちからもそういった意見が聞かれていることから、細やかな対応がその結果として表れたのかもしれない。

○しかし、キャリア教育の項目においては圧倒的に否定的な意見が多くなっている。コロナ禍もあり特に就職を目指す生徒の進路決定が難航していることも要因の一つであるかもしれない。

(7) 普通科総合コース2・3年

○生徒回答・保護者回答とも概ね「当てはまる」「少し当てはまる」が70%近いことは大変嬉しい結果です。

○⑩⑪⑬の生徒回答が5割以下であることに問題意識を持ちます。各授業担当者との連携を取り合い、主体的に学習する意識を育んでいきたいと考えます。また、総合コースの特色の一つである検定・資格取得について、昨年同様、保護者回答と生徒回答の差が見られました。進路に関する回答と連動すると分析します。

(8) 募集業務部

○満足度が高い項目は、生徒は「ルール遵守」「登校習慣」「学びの姿勢」、保護者は「検定・資格」。

生徒は学習に望む姿勢が身に付いていると感じ、保護者は学習の成果について関心を持ち一定の満足感を得ているということであろう。一方で「主体的・能動的学習」までにはたどり着いていない状況が見られる。

(9) 教務部

○⑧「わかりやすい授業内容」については、生徒が昨年度比5.5%増、保護者が3.6%増となっ
い

る一方で、教職員は7.3%減少となっている。教員の自己評価が厳しくなる分、生徒・保護者の評価も高くなるという考え方ができるのではないだろうか。引き続き生徒・保護者の評価が向上していくような取り組みをしたい。

○⑨「学ぶ姿勢・落ち着いた学習環境」については、生徒・教職員ともに「当てはまる」「少し当てはまる」の合計値において、ここ3年間で大きな変化は見られない。いずれにせよ8割前後

が上位2つの評価をしており、大部分が落ちついた学習をできていると考えられる。早期の個別対応を図ることで、9割への数値上昇を目指したい。

○⑩「定期考査への取組み」についても上記⑨同様の傾向が見られ、6割～7割が上位2つの評価となっている。令和4年度入学生から評価の仕組みが変わることも踏まえ、定期考査への意識がさらに高まるように働きかけをしていきたい。

○⑪「主体的・能動的な学習」については、保護者・教職員に比べ明らかに生徒は低い評価をしている。学習に対する主体性を引き出すこと・伸ばすことがその他の項目においても大きな影響を与えるものだと考えられる。

(10) 進路指導部

○昨年度の反省から量より質の向上と、コロナ禍での指導の在り方として、オンラインでの情報発信を主流とした。生徒は感染する可能性が極めて低い状態で、且つ、自分の都合に合わせて情報を受け取ることができる。このメリットはもっと知ってもらうように勤める必要がある。

(11) 生徒指導部

○⑯生活マナー向上(生徒81%、保護者76%、教職員86%)

昨年比ほぼ同数。生徒の大半が意識を持って取り組んでいることを評価したい。約2割の生徒に対する意識付けをどのように行うか。生徒指導部として意見を出し合い、しっかりと取り組んでいきたい。

○⑰校内ルール遵守

昨年比ほぼ同数。⑯と同様。

3 学校諸活動について

(1) スポーツ創志・普通科健康スポーツコース

○今年度は新型コロナウイルスの影響で思うように学校行事・コース行事を行えなかった。唯一

行えた「学園祭・体育祭」では物足りなさを感じながらも生徒たちは制約がある中で工夫し満足していることが分かった。来年度はいろいろな行事が実施できることを願いたい。

○ボランティア活動については、「Meisei クリーン運動」という取組みを行った。8つの部活動の協力で学校周辺地域の清掃活動を行った。普段何気なく歩いている道に多くのゴミが落ちていることに生徒たちは驚いているようだった。地域の方々からもお褒めの言葉をいただいた。

(2) 福祉未来創志・介護福祉科調理科

○生徒の評価では「ボランティア活動参加」が18%となった。今年度は積極的な活動ができず、多くの生徒が残念に感じている。コロナ渦において、学園祭や体育祭への取組についてはある程度の評価は得られた。科独自の行事について検討する必要がある。

(3) 食文化創志・調理科

○今年度は活動に制限はあるが、各学年とも積極的に生徒会本部役員や部活動に関わる生徒が多い。しかし各種の公式大会やイベントが規模縮小で、思うように練習の成果を発信できなかったため、生徒の評価は平均値にとどまった。

○この状況下にあっても保護者からは好評価である。制限されたなかでも、工夫しながら部活動はじめ各種行事に取り組んでいることを理解しているのだと思う。学校での学校生活について家庭で話題になっているのであれば、理想的である。

(4) 普通科1年

○今年度は予定していた普通科の行事や学習活動が思うように実施は難しかったことが数字に表れている。しかし、学園祭や体育祭を開催したことによる生徒の満足度は高かったことが垣間見える。

(5) 普通科情報表現コース2・3年

○今年の結果で昨年度と比べて大きく変化したのが「コース行事・修学旅行」についての項目であ

る。コロナ禍の影響で修学旅行を含めた様々な活動が制限されてしまった今年度を象徴した結果になった。次年度に、楽しみながらも学習につなげられる企画を練って、提示できたらと考えている。

(6) 普通科デザインアートコース2・3年

○ファッションショーの成功は数字として表れている。形を変えた学園祭として開催された文化発表会での科、コースを越えて作り上げた作品は保護者にもきちんと伝わったようである。

(7) 普通科総合コース2・3年

○今年度は、コロナウィルス拡大に伴う学校行事の制限が大きく反映しております。修学旅行をはじめ、総合コース独自の行事はほぼ中止となり、生徒回答「当てはまる」「少し当てはまる」は4割以下の結果でした。行事を大切にしている本コースとして、今後の取り組みに対して、実施可能な行事・活動を模索していきたいと思っております。

(8) 募集業務部

○今年は学校での様々な活動が制約を受けたことから、今回の評価については致し方ないところだ。次年度もこの状態が続くことを想定し、代替となる活動を計画する必要があるのではないだろうか。

(9) 進路指導部

○特に進学では活動報告書の提出が求められるようになるので、1年次から高校生活で頑張ったことや探求したことを、より多く答えられる（書ける）ようにすることが進路決定に役立つことを認識させられれば。

(10) 生徒指導部

○⑳HR・生徒会・委員会活動の活発化(生徒51%、保護者51%、教職員67%)

昨年比ほぼ同数。学園バスの関係もあり、放課後を使っでの活発な活動が難しい状況にある。

生徒に意識を持たせることの工夫が必要であると感じている。

○㊸学園祭・体育祭など（生徒 62%、保護者 67%、教職員 69%）

昨年比：生徒 69%→62%、保護者 76%→67%

コロナ禍の影響により実施方法に制限があったことで数値が下がったと予測される。新校舎の機能も含めて、新しい行事の在り方を模索したい。

4 高大連携について

（1）スポーツ創志・普通科健康スポーツコース

○今年度から1年生スポーツ創志科では大学の施設で「柔道」の授業を行っている。実際に仙台大学現代武道学科教授・助教授「柔道」の専門家にご指導をいただいている。また、スマートフォンを活用し、帰る際のバス内で授業の振り返りのアンケートに答えるなどを行った。2・3年生は施設を利用していないことから評価が低い数字になったと考えられる。

（2）福祉未来創志・介護福祉科調理科

○仙台大の施設を利用する場面は1年生のみに限られたため、全体的な満足度は低い。コロナ禍ではあるが、施設を利用した行事を考える必要がある。また、「大学情報の活用」についても、生徒・保護者共に低い評価である。例年、動揺の傾向であることを重く受け止める必要がある。ただし、本学科の生徒の多くは、卒業後は就職する傾向が高いため、そもそも大学への関心を示さない生徒・保護者がいることも事実であると考えられる。

（3）食文化創志・調理科

○新学科での学習との関わりを強化しようという動きはあったが、現状では目立った活動には結びつけられなかった。次年度以降は実践に移していきたい。

OGT にアドバイスをもらいながら、2人が仙台大学運動栄養学科への進学を決めた。2年生にも

希望者がいるので、計画的に学習を進めるように指導をしていく。

（4）普通科1年

○高大連携が重要な要素になってくる総合的探究において、思うような活動が出来なかったのは

非常に残念である。ことある毎に「仙台大学附属」としての話しをしてはいるのだが、実際に足を運ぶことが必要だと感じており、来年度は必ず仙台大学での実学を実践していきたい。

(5) 普通科情報表現コース2・3年

○情報表現コースはダートフィッシュを活用した授業を展開している。今年度も、大学側から溝上氏、ダートフィッシュジャパンからは松本氏に参加していただきながら小規模ではあったがダートフィッシュを用いた卒業研究発表会を行い、2年生の授業でも全員に体験する時間を与えたりしているが、それが結果として表れていない。設問が適切でないというのが要因としてあげられるかもしれないが、今後も高大連携を意識させて活動していきたい。

(6) 普通科総合コース2・3年

○⑳の回答は若干多いものの全体平均とほぼ同じパーセントを示しています。これは、学校から発信した情報による回答と仙台大学進学希望者のオープンキャンパス等利用者の回答と考えます。大学の施設利用や情報の活用について、本コースとして考えていきたいと思います。

(7) 募集業務部

○「仙台大学の施設利用」「大学情報の活用」が生徒・保護者共に満足度が低い。教員の満足度も他の項目に比べて低い。大学附属のメリットを生かすための機能的な動きが次年度の課題であろう。大学を活用することで学習面、社会活動面に新たな局面が生まれ、それはひいては仙台大附属明成の周知、生徒・保護者の満足向上に繋がるのではないかと。

(8) 進路指導部

○今年度は昨年度よりも14人少ない26人に留まったが、ここ数年の平均数ではある。今後は受け入れる側も進学先の候補として選ばれるようになるため、本校生徒に対し他校から来る学生と同様の扱いをしないと、希望者が今年以上に減ってしまうのではないかと。

5 家庭生活について

(1) スポーツ創志・普通科健康スポーツコース

○家庭学習の習慣では、生徒のあまり当てはまらないという回答が多かった。コースで自主学習の取り組みを行っているが定着していないことがこの結果でわかった。どのように進めていけばよいのか工夫が必要だと感じた。

○基本的な生活習慣では、ほとんどの生徒がしっかりと行っていると感じている。このまま継続させていきたい。しかし、ごく一部分の生徒の遅刻や欠席が多いと感じる。新年度を迎える前に面接などを行い改善させたい。

(2) 福祉未来創志・介護福祉科調理科

○「家庭学習の習慣」は、生徒は29%であるのに対し、保護者の評価は76%と高い評価であり、大きな差が見られる。生徒・保護者間での家庭学習のとらえ方の違いがあるのか、あるいは、自室にこもった状況において、“生徒の本音”と“保護者の想像”のずれがあるのか、定かではない。

(3) 食文化創志・調理科

○平常点が足りない、というのは授業以外の各教科からの課題をこなせていないことが原因である。家庭においても宿題をするように協力を引き続きお願いしたい。

○中学時代と比較すると、不登校が改善されている生徒が多く、保護者からも高い評価を得ている。一方で生活習慣の乱れによる遅刻が目立つ生徒もおり、しっかりと体調管理に努めることを社会人に成る前に身につけさせたい。

(4) 普通科1年

○二つの項目を見比べると、基本的な生活習慣は身につけてきているが、家庭での学習は習慣とはなっていないということがよくわかる。まずは「凡事徹底」というところではあるが、今後は自主的に家庭でそれぞれの課題に取り組む姿勢を身につけさせたい。

(5) 普通科情報表現コース2・3年

○家庭学習への意識がかなり低いことがわかる。学校で全て完結しているのなら問題はないのだが、課題提出状況や考査結果などを見てみると、家庭での学習で補っていくしかない状況ではある。家庭で難しいのであれば、今年度も実施した放課後学習を来年度以降も検討していきたい。

(6) 普通科デザインアートコース2・3年

○家庭学習の項目については生徒と保護者の間で大きな乖離が見られる。

○また、基本的な生活習慣においては生徒、保護者共に高い評価となっているが、学校生活の実態とはそぐわない部分もあると考えている。来年度は3名のみデザインアートコースとなるが出口までしっかりと見据えた学習活動を展開していきたい。

(7) 普通科総合コース2・3年

○回答⑳については、全体平均と共に低い回答を示しており、各教科との連携をして対応していきたいと考えます。回答㉑については、生徒と保護者とも「当てはまる」「少し当てはまる」の回答は高いです。在学2、3学年で構成されている総合コース故、学校生活を理解し、生活リズムが整った生徒が多いということだと捉えています。

(8) 募集業務部

○家庭学習の習慣化はここしばらくの課題であるが、Webの活用推進により、生徒のライフスタイルに合った学習方法を提供することができれば、現状からの変化が見られるのではないかと考えます。また、家庭での基本的な生活習慣定着度が高いと返答する保護者が多いことは、子どもの心身の安定成長にとって喜ばしい。

(9) 教務部

○㉒「家庭学習の習慣」に関しては、生徒・保護者ともに上位2つの評価が上昇している。コロナ禍による家庭学習時間の増加が要因としてあげられる。今年度の学習をきっかけにさらに家

庭学習が習慣化するような取組みを検討していきたい。

(10) 進路指導部

○勉強しなくても単位が取れる、進級や卒業ができるといった状況が、家庭学習の短さと相まって悪循環となっている。家庭での学習時間が少ないことは自覚しているようなので、勉強しないと単位が取れない仕組みの構築が肝要。

(11) 生徒指導部

○㉗基本的な生活習慣(生徒 67%、保護者 80%、教職員 70%)

昨年比：生徒 75%→67%、保護者 87%→80%

㉖生活マナー向上と㉗校内ルール遵守と比較すると生徒の数値は下がっており、保護者は高くなっている。学校では意識して生活している様子が伺えるが、家庭での自己評価が低いことに注目したい。保護者に情報を発信し、協力をもらうことで生徒の数値は高くなっていくものと考え。

6 その他

(1) スポーツ創志・普通科健康スポーツコース

○新学科となり新たな授業や新たな取組みを行ってきたがまだ全体に活動の意味や内容が伝わっていない部分があると感じた。生徒への伝え方・保護者への情報発信等まだやれることがあるので、今後改善していきたい。

○学習、進路、検定の部分が弱い。部活動が優先となり後回しにする生徒が多くいる。生徒に対しての意識付け、顧問の先生方の理解など周りと協力して生徒を導いていければと考えている。

○県外生も多く在籍し寮で生活をしているため、保護者の回答で「寮生活をしているので学校の様子が分からないから回答できない」というコメントが多くあった。ホームページの活用が重要になってくると感じた。

(2) 食文化創志・調理科

○自由記述で、1学年での授業態度について多く書かれていた。学校生活アンケートや教務アンケートでも同様の結果で、本人への指導および保護者への協力依頼等を行っているが改善には至っていない。考えが浅く幼さも残って授業に集中できない生徒がいるため、各教科の様子をうかがいながら、適切な指導をしていきたい。

○教員の心遣いや、きめ細かい指導に感謝をされる記述がある一方で、進路指導面での対応が不十分だという意見も見られた。コロナ禍で、これまで以上に受験体制等に不安があった生徒に、寄り添えていなかったのだと思う。生徒の求めていることを察知して、教員の声かけや指導が自己満足にならないように気をつけたい。

(3) 普通科1年

○キャリア教育については理解できていない部分も含めて、低い値が確認された。来年度からいよいよ類型学習が本格化する。2年次からはより将来に繋がる学習という部分を意識させて活動を行っていきたい。